

国連生物多様性の 10 年日本委員会 (UNDB-J)
平成 26 年度事業実施結果

新規事業

Iki・Tomo 推進事業

【 】 Iki・Tomo 推進事務局

1. 生物多様性に関する行動の呼びかけ

(1) MY 行動宣言 5 つのアクション【CEPA ジャパン】

- ・新たに 18 件のイベント (参加者数約 3,242 人) で活用
(平成 26 年末時点: 130 件のイベント (参加者数 28,792 人))

(2) 生物多様性アクション大賞による表彰【CEPA ジャパン】

- ・UNDB-J 主催事業としてセブンイレブン記念財団との共催にて実施
- ・124 の応募から審査を経て選ばれた、5 つの部門賞ほか特別賞について授賞式を開催

2. 主流化に向けた活動プログラム

(1) 「生物多様性の本箱」の普及

- ・常設展示、企画展等実施施設の増加 (平成 27 年 1 月末日時点: 46 施設)
- ・東北の施設への全冊指定寄附 (経団連自然保護協議会)【日本自然保護協会】

H26 寄贈先:

- ・特定非営利法人松川浦ふれあいサポート (福島県相馬市)
- ・地球の楽好親子サロン「ボヌールド サクラ メルシィ」(福島県福島市)

(2) 連携事業の認定【国際自然保護連合日本委員会】

- ・UNDB-J が推奨する連携事業の認定
9 月 第 5 弾 10 事業認定
3 月 第 6 弾 10 事業認定

(3) グリーンウェイブ【国土緑化推進機構】

- ・グリーンウェイブ 2014 実施結果 (別紙参照)
参加団体 367 団体、協力団体 193 団体
参加人数約 51,000 人、植樹本数約 98,000 本
- ・3/1~グリーンウェイブ 2015 の開始に向けて報道発表による広報を実施

(4) 生物多様性出前講座【日本自然保護協会】

- ・ウェブサイト移転等業務に伴い、今年度は中止。

3. セクター間の情報交換

(1) 生物多様性全国ミーティング

- ・10/24 愛知県豊橋市で「第 4 回生物多様性全国ミーティング」を開催(約 450 名)

(2) 生物多様性地域セミナー

- ・大分県 世界農業遺産である国東半島において、生物多様性と農林水産業との繋

がりを考えるパネルディスカッションを開催（約 180 名）

- ・北海道札幌市 円山動物園において認定連携事業事例紹介、テーマ別動物園ガイドツアーを実施（約 90 名）
- ・宮城県大崎市 「第 3 回生物の多様性を育む農業国際会議 2014」との共催により田んぼの生物多様性を考える子ども向けワークショップを開催（午前：750 名、午後：約 50 名）

4 . 情報発信

(1) 広報誌

- ・一般生活者を対象とした普及啓発用小冊子として、自然の恵みを感じる生物多様性マガジン「Iki・Tomo」を 3 回発行
Vol.8「旅と生物多様性」(協力：(株)JTB)
Vol.9「野生の恵みと生物多様性」(協力：丸の内シェフズクラブ)
子ども向け特別号

(2) 生物多様性.com【日本自然保護協会】

- ・2 月テストサイト運用開始（H27.5 本格稼働 予定）

(3) Iki・Tomo パートナース

- ・Iki・Tomo パートナースへの新たな参画を広く呼びかけ（平成 26 年末時点：1465 人。昨年度末比約 450 人増加）
- ・認定連携事業や子供向け推薦図書をはじめとする UNDB-J の様々な取組のほか、UNDB-J 構成団体の取組を広く発信

(4) 環境教育

- ・企業、NPO/NGO、教育機関向け環境教育のためのヒント集を作成中。

(5) UNDB-J ウェブサイト

- ・サイト移転実施(2 月)

(6) 広報ツール

- ・リーフレットやブックマーク等を活用して各セクターに働きかけ

(7) 特別事業

- ・COP12(10/6~17 韓国 平昌(ピョンチャン))において、UNDB-J の活動を国際的に発信するサイドイベント「UNDB-Day」を実施(10/14、別紙参照)
- ・ESD ユネスコ世界会議(11/4~8 岡山、11/10~12 名古屋)において、UNDB-J の活動についてパネル展示

5 . 主流化推進チームによる広報・主流化

(1) 地球いきもの応援団、生物多様性リーダー

- ・新たな生物多様性リーダーとして「森田正光」氏(大分地域セミナー)、「小菅正夫」

- 氏（北海道地域セミナー）「大桃美代子」氏（大崎地域セミナー） 任命
（平成 26 年 3 月末時点：9 名）
- ・新たな地球生きもの応援団として「高木美保」氏、「長沼毅」氏 任命
（平成 26 年 3 月末時点：26 名）

（2）生物多様性キャラクター応援団

- ・新たに 23 のキャラクターが入団（平成 26 年 1 月末時点：114）
- ・緑の goo「里山どうぶつコレクション」に 7 キャラクターが参加

6. 委員会等の運営

- ・委員会（7 月） 幹事会（2 月） 運営部会（6 月、9 月、2 月）を開催
- ・寄付金の活用については UNDB-J 支援事業財務委員会（6 月、2 月）と連携
- ・国連生物多様性の 10 年の中間年である平成 27 年（2015 年）に向け、2/20 経団連会館において「国連生物多様性の 10 年中間年に向けたキックオフフォーラム」を開催。

【参考】

- （1）UNDB-J 推進事業（愛称：Iki・Tomo 推進事業）について
- ・UNDB-J 活動を拡大するため、UNDB-J 構成団体による事業との連携が効果的な事業や、UNDB-J 構成団体からの提案事業等については、環境省（UNDB-J 全体の事務局）と調整のうえ、UNDB-J 推進事業（愛称：Iki・Tomo 推進事業）に位置づけ、当該団体内に事務局（愛称：Iki・Tomo 推進事務局）を設置
 - ・事業の実施にあたっては、UNDB-J 全体の事務局である環境省と連携しつつ実施
- （2）寄付協賛募集事業について
- ・事業規模の拡大等を図るため、事業の目的や趣旨に応じて、企業等に寄付協賛を呼びかけつつ事業を実施
 - ・例えば、「生物多様性の本箱」の各作品を東北に寄贈するプロジェクトについては、各出版社への協賛（本の提供）の呼びかけや、企業等への寄付（寄贈式の実施費用の負担等）の呼びかけについても実施を検討
- （3）UNDB-J タイアップ事業について
- ・企業等と UNDB-J がタイアップし、生物多様性の普及啓発ツール・アイテムを作成
 - ・例えば、「Iki・Tomo」の発行については、企業等の生物多様性に関する取組を掲載する企画についても実施を検討（企業等は制作費等を負担、UNDB-J は生物多様性に関するコンテンツを提供するなど）